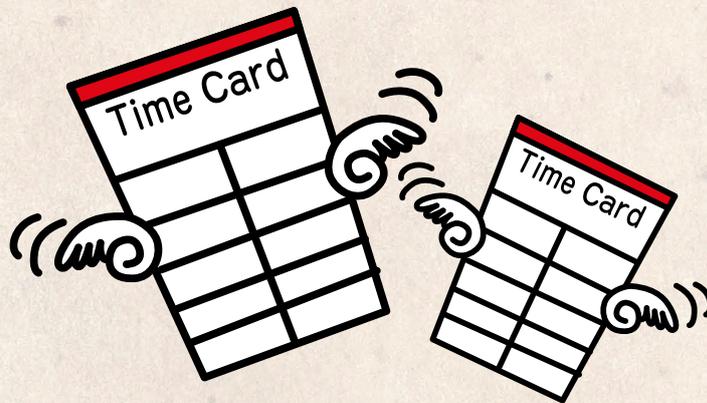


10th Anniversary  
10周年記念



クラウド勤怠管理システム

バイバイ タイムカード

【 質実剛健 × 最先端 】

誕生から10年、質実剛健を貫いてきた「バイバイ タイムカード」は、お客さまに安心して、快適にご利用いただけるサービスに成長してきました。これからの10年、お客さまに安心をもたらす質実剛健を更に強化しつつ、最先端技術を用いたワクワク感も感じていただけるサービスへと進化していきたいと思っています。

# History 2003-2013

バイバイタイムカードの歴史 2003 - 2013



## 一般の歴史

- ソフトバンク社がADSLモデムを街頭で無料配布
- 六本木ヒルズオープン
- 日経平均がバブル崩壊後の最安値7,603.76円を記録

- 楽天がプロ野球に新規参入
- ニンテンドーDS発売
- PSP発売

- 中部国際空港開港
- 郵政解散・総選挙
- 加入者純増ベースで光通信がADSLを抜く
- 日本の人口が戦後初めて減少

- 小泉総理が退任し、安倍内閣発足 (翌年辞任)
- Wii発売

- ネオレックス20周年
- 日本郵政、セールスフォース採用
- モバイルWifiルーターの提供が始まる

- Twitter、日本語サービス提供開始
- Facebook、日本語サービス提供開始
- 日本でiPhone販売開始
- リーマンショック

- オバマ大統領就任
- Windows7発売
- 日本初のAndroid携帯発売
- 民主党政権発足

- iPad発売
- 改正労働基準法施行

- 東日本大震災
- MyStats提供開始
- アナログ放送終了

- スカイツリー開業
- ネオレックス25周年
- Windows8発売
- 自民政権発足

- 2020年の東京五輪開催決定



0 25,000 50,000 75,000 100,000 <単位:人>

# Infograph

バイタイタイムカードの実績



北海道から  
沖縄まで!

バイタイタイムカードの打刻端末は、北は北海道から南は沖縄まで、各地に設置されており、利用者は日本全国に広がっています。

## 107年

生み出された時間

バイタイタイムカード導入による自動化・効率化で、10年間に生み出されたユーザーの皆さんの時間です。短縮された、従業員1人分の作業時間を月に15分と想定し、10年間の月間利用者数累計から算出しました。

## 118億円

月間給与

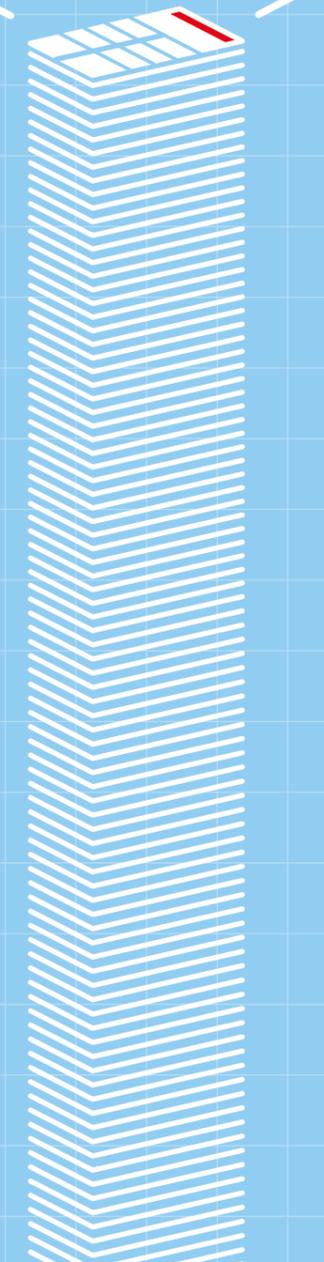
バイタイタイムカードで集められたデータに基づいて支払われている、1ヶ月あたりの給与総額です(2013年10月時点)。正社員・パートなどの従業員種別ごとの平均給与をもとに算出しました。

## 100倍

スピードアップ

バイタイタイムカードの処理速度の、10年前との比較です。特にデータの読込において、独自開発したオンメモリデータベースの実装などにより高速化に取り組んできました。

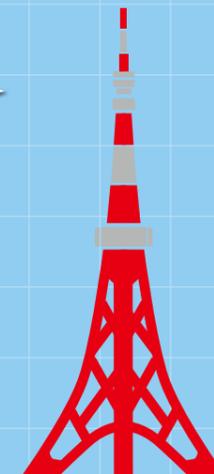
1125m



634m



333m

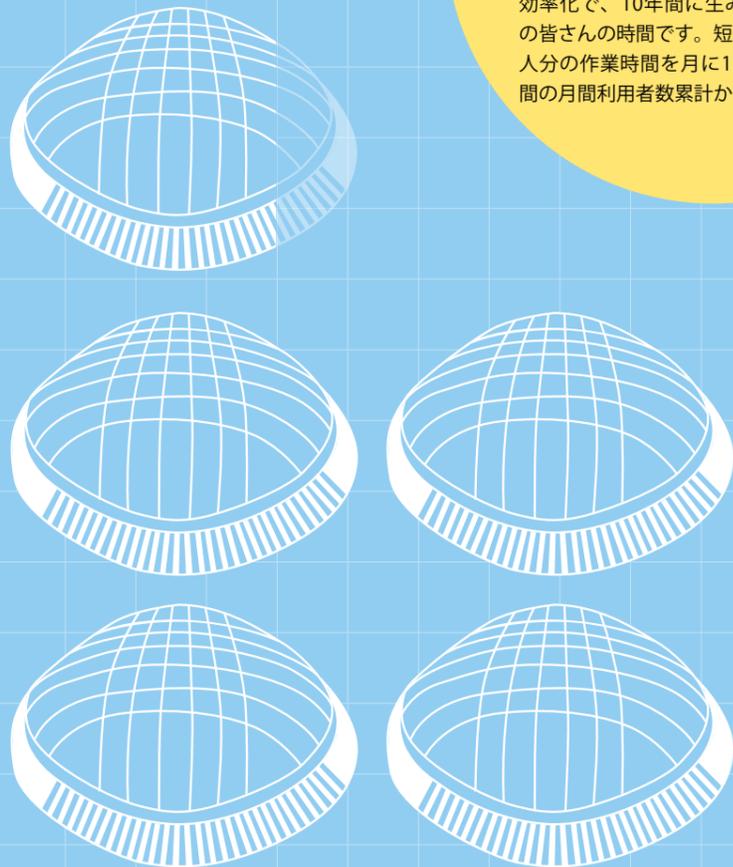


バイバイした  
タイムカードの量は… /  
東京ドーム  
**4.8個分!**

バイバイタイムカードの利用により10年間で削減された紙のタイムカードは375万枚。標準サイズ(188mm×88mm)で計算すると、その面積は6万2千平方メートル。東京ドームのグラウンドに敷き詰めると、4.8個分になります。

バイバイした  
タイムカードの量は… /  
スカイツリーの  
**1.77倍!**

10年間で削減された紙のタイムカード375万枚を積み上げると、1枚あたり0.3mmとして1,125メートル。東京タワーの3.38倍、スカイツリーの1.77倍になります。



# Stories & Memories

## バイバイタイムカードの思い出

※文中に「バイバイ」及び「BT」という言葉が出てきます。これらは、ネオレックス社内におけるバイバイタイムカードの呼称です。各人の思いや雰囲気を伝えるため、これら用語は原文ままとさせて頂きました。

### コンサルティングチーム リーダー 武井俊輔

#### 「コンサルティングチーム」

これまで10年間、バイバイタイムカード事業に携わってきました。多くのお客様・パートナー様に支えられながら、たくさんのお客様をさせていただきました。ただ、これからお話しするのは私ではなく「チーム」についてです。バイバイタイムカード事業スタート時、システム設定・動作確認・調整はすべて私が1人で行っていました。転機が訪れたのは2006年。これまでにないビッグユーザの受注を機に2人のメンバを迎え、「設定チーム」が誕生しました！！その後もう少しづつメンバが加わり、現在では総勢6名。社内



でも大きなチームとなりました。真のニーズを知ることによって、経験・技術・知力によって、お客様がやりたいことを実現できる自慢のチームです。10周年を迎える前に新しくなったチーム名にとまどいと若干の照れくささを感じていましたが、今では「コンサルティングチーム」という名前に誇りと自信を感じています。

### コンサルティングチーム 小島大輔

#### 「心を動かすシステムとしてのバイバイタイムカード」

とあるBT導入検討中の案件で、テスト利用の打刻端末設置のために現場を訪問する機会がありました。設置後、打刻開始のため現場のリーダーが端末の横に立ち、来る人来る人に指静脈の登録を案内し、登録できたら実際に打刻する、そんな流れを見守りました。（打刻方式は指静脈認証でした）すぐに打刻できる方もあり、つまづかれる方もありで、様々な様子を見ることが出来ましたが、中でも鮮明に覚えているのが、打刻が上手くいって受付音が返ってきたときに「おおっ！」と驚き感心された方がいたことです。勤怠管理システムは決して派手なジャンルではありません。



基本的には日々淡々と利用されるシステムです。それでも、ときに人を驚かせ、心を動かすことができる。それを学ぶことが出来た体験として、この出来事が強く思い出に残っています。

### サポートチーム 荒川健一

#### 「お客様からいただいた声」

お客様サポート担当としては、やはりお客様からの感謝の言葉が一番嬉しい思い出です。「ありがとう！」「できるようになった！」「またお願いします！」など、何気なく電話やメールでお礼を下さるお客様からの感謝の言葉はとても嬉しいものです。その中でも、あるお客様から「さっきメールした件、すぐに対応して返事がもらえたことに驚いた。迅速に対応してもらって非常に助かった」と言われたこと。これをきっかけに、可能な限り早急な対応をしようと心がけるようになりました。



また印象的だったのは、諸事情によって別のシステムを使うことになったお客様から「今頃になって貴社のシステムの使い勝手が良かったと社内で評価されている」というメールを頂いたこと。他のシステムと比較しての感想なのでとても貴重です。誇らしく思い、励みになったと同時に、システムの評価に負けないサポート対応をしなければ、と強く感じたことを覚えています。

### 社長 駒井拓央

#### 「競合がくれた大きな『一言』」

ヒューマンキャピタル2011展示会場、アマノビジネスソリューションズ、HOYAサービス、エイ・アイ・エスというクラウド勤怠管理の競合3社が向かい合うブース、それぞれに知人のいた私が挨拶して回るうち、私を加えた4社が輪になって話す状態となった。そこで言われた「いつものびのびビジネスしていて羨ましい」に、とても驚いた。「革新的」「最先端」、大好きなこうした取り組みを押し「質実剛健」を貰ってきたつもりだった。少し窮屈なぐらい・・・ところが彼らは「のびのび」していると言う。既存ビジネスや親会社、多くのシガラミを持つ彼らには、何にも縛られず、ただまっすぐにお客様を見てビジネスを推進している私達がそう見えたのだろう。「『シガラミ』の無い強みを存分に振るい、もっとネオレックスらしさを出して『のびのび』戦うべきじゃないのか！」そんな思いに至らせてくれた一言。この数カ月後、バイバイタイムカード for iPadが動き出した。



### 副社長 駒井研司

#### 「ラーメン屋さん」

「うちのメンバとなら、ラーメン屋さんをはじめたって成功できると思う」名古屋の本社近く、熱田神宮の南、国道1号線沿いを歩きながら、社長にこう話したことを憶えています。2003年春のこと。当時のネオレックスは、常に斬新で画期的な開発に取り組んでいましたが、収益化は難しく、とても苦しい日々を送っていました。ネオレックスのメンバは皆、すごく優秀で、まじめで、一生懸命。こんな集団なら、たとえ畑違いのラーメン屋さんをはじめたとしても、繁盛店にできるはずなのに。そう考えたのです。そしてこれが、バイバイタイムカードが生まれるきっかけとなりました。自分達のITの世界で、ラーメンのように誰でもつくれて、どこにでもあって、でもとても特別なものが存在し得る。そんな分野を探し、勤怠管理システムに辿り着いたのです。あれから10年。「誰にでもできることを、誰にもできないレベルで」という思いで、みんなでバイバイタイムカード事業を創り上げてきました。この先の10年も、その後の10年も、ずっと変わらずにいたいと思います。



### 開発チーム リーダー 中村裕樹

#### 「ソフトウェアの工夫で速度を10倍以上に！」

だいたい7年前の事です。当時、事業はまだ小規模でサーバーには十分余裕がありました。しかし大規模なお客様での採用によって、サーバー負荷に対して厳しい要求が突きつけられました。サーバーのハードウェアも刷新して増強しましたが、ピークとなる締め日などにシステムのキャパシティを超えることが頻発して、何度も冷や汗を流しました。汎用DB（データベース）を普通に用いている事による限界でした。選択肢は2つありました。1つは、ものすごくお金をかけてDBシステムを増強する方法。もう1つは、独自にバイバイタイムカードシステム専用のオンメモリデータベースを開発する方法です。私たちは、後者を選択しました。度々発生する大きなアクセス集中にヒヤヒヤしながら超特急で開発を進め、1年後には無事導入を果たしました。これによって、ピーク時のシステム負荷は10分の1になりました！お金をかけたDBシステム増強ではとても実現できない成果です。前者を選ばず、後者を選んで挑戦した事はとても良かったと思っています。



### 開発チーム サブリーダー 中村健児

#### 「バイバイタイムカードはマイスタークラウドアプリ」

1993年の入社から10年、いろいろな工夫をして納得のいくソフトやシステム開発をしてきたつもりでしたが、十分な売り上げにはつながりませんでした。どれほど良い家族、会社であっても稼ぎが無ければ続きません。また、会長に厳しい経営環境を聞いたこともあり、心苦しんでいました。バイバイタイムカードの開発に着手したのは、そんな折でした。そこでバイバイタイムカードの開発では、一貫して収支改善を意識してきました。私たち技術者が真摯にお客様ニーズに向き合い、皆で必死に努力し、他に例がない仕組みを生み出して、高効率のシステムを提供する。裏方職人達が苦労しながらも多種多様な創意工夫で開発し、成長させてきたバイバイタイムカードは「マイスタークラウドアプリ」なるものだと思っています。まだまだ理想には遠いですが、新たな多くの仲間を迎えられるだけの収益を上げられるようになり、とても嬉しく思っています。



コンサルティング  
チーム  
甲村靖彰



「大きな壁を乗り越えたことによる自信」

バイバイタイムカード誕生時には入社していましたが、数年間は別の事業を担当していました。しかし、バイバイタイムカードが西武グループ様にご採用いただいたことを契機に、集計全般の担当者に大抜擢されました！西武グループ様の勤怠集計内容を把握し、かつ、バイバイタイムカードシステムを理解して設定できるようになるまでは、当然ながら残業は非常に多くなりました。ですが、それを乗り越えたことは現在でも非常に大きな自信となっています。その後、多少業務が立て込んでいたという状況であっても「西武グループ様への導入に比べたらなんとでもできる」というポジティブな考えを持つことができています。

コンサルティング  
チーム  
山田英貴



「ドキドキさせてしまったこと」

100名以上の方たちに向けてバイバイタイムカードの説明会が予定されていた当日の朝にやっと設定が完了し、いざ本番環境へ適用。まもなく副社長から「画面を確認して、10分でなおして！」と電話が入りました。数分後には説明会が始まるというなかで不具合が出てしまっている状況に、とてもドキドキしました。しかし、100名以上の方を前に説明を行わなければならなかった副社長は、私以上にドキドキされていた事と思います。改めてですが、「副社長、ドキドキさせてしまってすみませんでした」色々な事情があったにせよ、もっと早く準備を完了し、副社長に安心して説明会を実施して頂けるようにしておくべきでした。人の立場に立って行動することの大切さを身にしみて感じ、以後の仕事に生かすことができたとても良い経験でした。

開発チーム  
畠山裕



「初期の開発メンバーなので  
本当はもっといろいろありますが…」

<苦労したこと>  
有休管理機能の開発です。初期開発の当時も、時間年休対応の時も、全面刷新をしている現在も、苦労の連続です。でも今は、小島くん・杉原くんという心強いパートナーを得て、力強く進められています。

<ドキドキしたこと>  
社食システムの開発です。あるお客様向けに、バイバイタイムカードと連動する社食システムを開発した時のこと。お客様と直接会い、運用現場を見せてもらって、管理システムと端末の仕様を設計、コーディングし、サポートや出荷にも関与という風に、広範囲に担当したのはこのJOBが初です。実際にシステムが動き出すまでは、かなりドキドキでした。

<ワクワクしたこと>  
バイバイタイムカードという名前が決まった時「今後、すごく戦略的にビジネスが進んでいきそう」と感じてワクワクしました。

開発チーム  
黒田尚希



「変わるもの・変わらないもの」

私がBTと関わってきたこの8年、見た目・処理速度・お客様ニーズ等は常にダイナミックに変化していますが、「より早く・より正確に」という思いはずっと変わりません。BTのサービス開始は2003年10月ですので、私が社員として入社する2年半前、アルバイトとして採用される1年半前となります。アルバイトだった当時、私は設定されたシステムの動作確認を早く・正確に行うためのツール開発を担当致しました。テスト時の様々な入力操作を自動化するためのものです。うまく動作するようになるまで試行錯誤の連続で苦労しました。またこのツールは、ブラウザを直接操作するスクリプトを使ったもので、複雑なことは出来ず、自由度の低いツールでした。しかし、より早く・より正確にするための取り組みはその後ずっと続けられ、結局この時のツールが発展し、現在のバイバイタイムカード専用のテストシステムとなりました。当時のことを思うと、感慨深いものがあります。

コンサルティング  
チーム  
遠藤陽介



「ニーズに柔軟に対応できる  
バイバイタイムカード」

私は入社以来、各ユーザに対しての新規導入やシステム改修の担当としてバイバイタイムカードに関わってきました。その中で特に強く感じていることは、バイバイタイムカードは柔軟な対応ができるということです。私が経験した範囲内でも、複雑な集計ルールやニーズのほとんどに対応することができました。仮にその場では対応できないものであっても、機能の改善や新規開発が常に進められ、希望を満たしていくことができる体制となっています。私が初めて導入を担当したユーザでも、新たなニーズに応えるための新規開発が、導入と並行して行われました。また特別な運用ルールにも工夫によって対応を実現。導入が無事完了したときは、とてもうれしく感じました。私はまだバイバイタイムカードの内部の仕組みを理解し始めた段階です。今後も何らかの形でバイバイタイムカードの発展に貢献していきたいと思っています。

コンサルティング  
チーム  
坂野元紀



「はじめての出張と設定」

入社一年目なのでBTに関する経験は浅いのですが、導入から稼働まで関わらせていただいた最初のお客様が印象深いです。先輩に同行し、はじめて参加したキックオフミーティングでは、強い主張をされるお客様に内心驚きましたが、問題なく稼働まで進み、ほっとしました。IT未経験者なので、入社後しばらくはBTの動作確認をしながら内容を覚えていくことがメインでしたが、一部とはいえ、設定作業を行ったのもこの時がはじめてでした。自分で設定を行い、意図通りに動作したときは、ささやかながら感動しました。未経験者でもやれることはたくさんありましたし、これからどんどん覚えていけそうなので、今後、自分がどうBTに関わっていけるか楽しみです。

開発チーム  
杉原進哉



「STR for iPadの開発」

私が一番BTで関わりのあるものは、STR for iPadの開発です。2012年1月、当時私は別事業であるMyStatsの開発に専念していましたが、BTにも関わりたいと思っていました。そんな折、打刻をiPadとQRでやりたいという話が入ってきたので、これはいい機会とほりきってプロトタイプを作りました。最初のプロトは、QRをかざすとそのコードが下に出てくるだけという簡素なものでしたが、レスポンスは非常に良く、良い物ができそうだという手応えがあったことを記憶しています。それから程なくして、STR for iPadは世に出ました。最近はお客様に採用されることも多くなりましたが、今でも採用される度に嬉しい気持ちになっています。BTに初めて関わった開発プロジェクトであり、また開発当初から関わった初めてのプロジェクトだったので、思い入れの強い開発物です。

開発チーム  
中村貴英



「バイバイタイムカードの思い出」

バイバイタイムカードの思い出、やはり一番は、バイバイタイムカード for iPadの刷新プロジェクトです。入社して1年も経たないある日のこと、刷新プロジェクトの“デザイン”担当に任命されました。かつて大学では、作った資料の色使いが幼稚だの、読みづらいだの言われてきた私が、です。しかし、せっかく任せられたんだから、逆にネオレックスのデザイナーになってやろうと奮起して頑張りました。「色がダサイ」と言われては直し、デザインの遅れはスケジュールに強く影響するから土日も頭から離れないし、胃がキリキリするし、ということを経て、さらにみなさんの協力のおかげで無事刷新できて、絶賛(!?)利用中です。今となっては、いい思い出です。

品質管理チーム  
佐原孝仁



「仲間が増える喜びを感じて」

私にとってのバイバイタイムカードの一番の思い出は、事業の拡大に応じて、新たな仲間が増える喜びを感じてきたことです。（現在も進行形）  
特に印象深かったのは、山下君、黒田君がネオレックスに加わった時です。それは、ユーザー数が順調に増え、テストがとても人の手だけでは回らない状況が見えて来た頃でした。  
彼らは入社した時から率先してテストの自動化の検討や構築に力を発揮しました。私は、一人、また一人と素敵な仲間が増える喜びを実感し、嬉しく思いました。  
ネオレックスに新しい仲間が加わる時にはいつも、とても特別な感覚を覚えます。それは、知らない人が急にそこにいるという感じではなく、まるで、気持ちの通じ合える家族がひとりずつ増えていくような感じです。  
これからも、バイバイタイムカードの成長とともに、新たな仲間を迎えていきたいと考えています。

品質管理チーム  
山下公大



「バイバイ タイムカードのテストの自動化」

バイバイ タイムカードがアップデートされる時、全体的に問題が起こっていないかを確認する（以下、全体テスト）ことが通例ですが、巨大なシステムのすべてをチェックしようとすると莫大な労力と時間を要します。この難題を解決しているのがいくつかの自動テストツールです。  
私がバイトとしてネオレックスに入社したとき、自動化ツールはまだなく、計画・作成されている段階でした。よって、本来は行うべき全体テストを行う事が出来ませんでした。そのため、新しいプログラムがリリースされるたび、不具合が4～5個必ず見つかるという状況でした。そして不具合の内容によっては、プログラムを以前のものに戻さなければならないこともありました。自動テストツールが整備された今は、不具合は激減。当然ながらプログラムを以前のものに戻すこともなくなりました。  
私が関わってきたテストの自動化は、バイバイ タイムカードに革命をもたらしたと、胸を張って言いたいと思います。

会長  
駒井俊之



「半端ではない技術レベル。  
東京のプロが教えてほしいと…」

西武さんの運用が始まってしばらくして、「管理システムの動作が遅い、使い物にならない」という連絡が入りました。調べたところ、想定何倍ものアクセス集中が原因でした。  
急遽上京をしてそのことを説明したのですが、だからと言って納得していただける訳ではもちろんありません。Webシステム構築のコンサルタントがネオレックスを支援することになり、後日、名古屋で裕樹君と健児君がシステムの説明をしました。  
その時のコンサルタントの結論は「指導することはない、教えて欲しいぐらい」というものでした。  
こうした高い評価の技術で改善に取り組み、遂には平均応答時間0.03秒という驚異的な性能を持つシステムが出来上がったわけです。  
実直でまじめ、高度な技術集団であるネオレックスを、私は、この時も大いに自慢に思いました。

マネージャー  
駒井佳子



「自慢のネオレックスDNA」

バイバイでの一番の思い出は西武様での採用に向けた緊張のやりとりです。  
色々な課題について回答日時が決められている中で、皆さんの緊迫した打ち合わせ、時間ぎりぎりにメールを送り終わった副社長の安堵の声など、忘れられません。後に、この西武様のシステム選定に関わっていたコンサルティング会社の方から「全ての問いに時間内に回答できたのはネオレックス一社」とお聞きしました。  
内容もさることながら、これも採用の大きな決め手であったことと思います。  
  
この高い能力と素晴らしい結束力！  
ネオレックスのDNA  
「誠実、仕事を楽しむ、より高度な事に挑戦する」  
このDNAが今後もずっと受け継がれていく事を信じています。

品質管理チーム  
長谷川正樹



「バイバイ タイムカードの思い出」

バイバイ タイムカードに関する一番の思い出は「プリンスホテルさんのSC導入プロジェクト」です。（SC = Service Creator = 配膳会スタッフ）  
ここ数年で一番大きなプロジェクトだったかと思います。僕はまだ入社して間もない頃で右も左もわからないような状況でした。プロジェクトの計画から仕様書の作成、開発、テスト、設定がどんな流れで行われるのか初めて目の当たりにしました。副社長をはじめとして、社内みんなが一丸となってプロジェクトを進めていたのを覚えています。  
僕自身は集計ルールの動作確認やマスタの登録に携わり、新しい機能もあったので大変でしたが、良い経験を積むことができました。  
あれからBTのユーザはさらに40社ほど増え、機能面でも更なる進化を遂げています。次回は20周年。BTのこの後10年の展開が楽しみです。

品質管理チーム  
川畑耕介



「皆様への感謝」

思い出するのはあるお客様で発生したある不具合の修正対応のことである。それは、本来必要であったスナップショット機能（月度単位で従業員マスタ情報を保持する機能）が手違いで未提供だったため、データが誤って集計されるという問題であった。  
武井さんの「一人で悩むな、いろいろな人に協力を仰げ」という言葉を受け動いた結果、実に多くの方のご協力を頂いた。  
健児さん、山田さん、小島さんにはデータ正常化手法の検討の際、沢山の助言を頂いた。  
荒川さんには、スナップショットを提供する際の各種調整をして頂いた。  
甲村さんには、データ正常化作業の一部を代行して頂いた。  
黒田さんには、正常化対象の従業員を抽出するクエリを作成して頂いた。  
長谷川さんには、スナップショット機能の動作確認を担当して頂いた。  
結果無事問題が解消され、現在もこのお客様においてBTは安定して稼働している。あの時のことを思い出すと皆様のご協力に対しての、感謝と感動の念を感じずにはられない。

次長  
水野義正



「草食系営業？」

私たちは、すべてのお客様にバイバイ タイムカードをお勧めするわけではありません。お問い合わせ下さったお客様のニーズをよく伺い、私たちがしっかりお役に立てるかを考えます。  
バイバイ タイムカードが合わないお客様には、他のサービスを探す事をオススメしたりすることもあります。  
こう書いてしまうと何かやる気のない、今風に言えば草食系営業のように思われてしまうかもしれませんが、決してそういうわけではありません。  
売って終わりのシステムと違い、クラウドサービスは使い続けていただき、毎月利用料をいただく事で成り立っています。このため、バイバイ タイムカードが合わないお客様に上手に売り込んだとしても、永く使っていただくことができず、お互い不幸な縁となってしまいます。  
自信をもってピッタリだと言える、喜んでいただけると確信できる、そんなお客様にだけ全力でお勧めする。  
  
バイバイ タイムカードの営業は、幸せな仕事だと思っています。

澤田実果



「打刻カードの作成と電話対応」

私のバイバイ タイムカードの思い出は、打刻カードの作成です。  
初めてカードを作成するとき、今後の期日の目安にするために時間を測って業務をする、という方法を教えて頂きました。  
初めの頃は「丁寧に」を心掛けると、100枚作成するのに1時間半もかかっていました。いかにきれいに早くできるかを工夫し続け、今では1時間で100枚作れるようになりました。  
だんだん短い時間でより多くのカードを作れるようになり、楽しみながら取り組めるようになってきました。  
今なら、たくさんのカード作成も、迅速に対応します!!  
また電話対応では、よくお電話頂く方のお名前や声も覚え、電話に出るのがとても楽しくなりました。  
バイバイを通して素敵な出会いができ、とても嬉しく思います。

# バイバイタイムカード 豆知識

